

ねぎに対する A 菌根菌資材「育苗用 G2」比較ポット試験

【材料および方法】

ねぎ品種：新緑のいざない（トキタ種苗）

育苗用培土：住友林業緑化ネギ培土使用〔pH6.5, N800mg/ℓ, P1600mg/ℓ, K550mg/ℓ〕

ポット培土：滅菌した赤玉川砂混合培土使用

追肥用液肥：ピータース（ハイポネックス）〔N25%, P5%, K20%〕

CP303 チェーンポット 2 粒撒き播種後、スチーム発芽器を用いて約 1 週間芽出しを行いポットに移植した。無処理区、処理区（移植時 1 ポット当たり「育苗用 G2」5 g 処理とした）、共に 5 反復設定。写真①肥料分は育苗培土由来の肥料成分と、追肥を月 1 回ピータース 100 倍液処理（試験期間中 2 回）のみとした。ポット移植から約 2 カ月後の、菌根形成の調査・地上部重と根重の調査・葉鞘径の調査を行った。

【結果】

ねぎ葉鞘径と重量の平均値を表①に示す。葉鞘径、地上部重、根重ともに処理区の生育が高く有意差が認められた。写真②③目視でも同様に明らかに高い生育差が見られた。写真④根の共生率は、処理区のみ共生が観察できた。結果、ねぎに対し「育苗用 G2」を処理することで明らかな効果を確認することが出来、本圃でも生育促進による生産性向上が期待できると考えられる。

表① ねぎ葉鞘径と重量

	葉鞘径(mm)	地上部重(kg)	根重(kg)
cont.	3.6 B	2.1 B	0.7 b
G2	4.6 A	3.3 A	1.1 a

(n=10)

異なるアルファベットはStudentのT-testで有意水準 1%（大文字）、5%（小文字）で平均値に差がある

【写真】



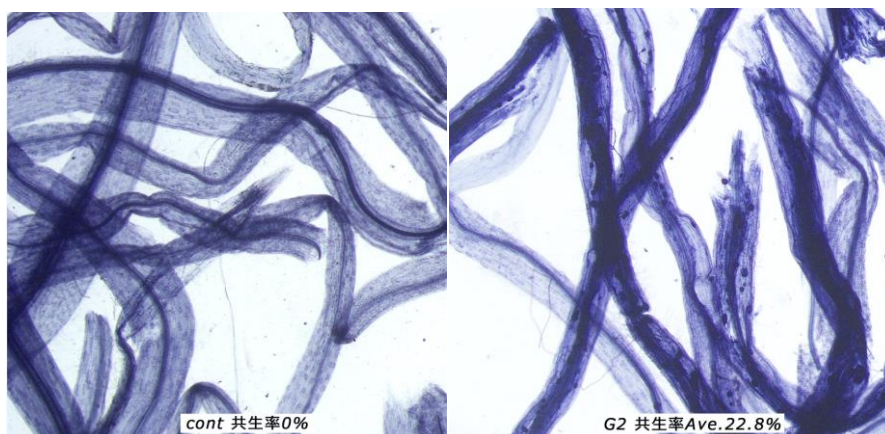
写真① 比較試験の様子



写真② 約1ヶ月後の様子



写真③ 約2ヶ月後の様子



写真④ 根に共生したA菌根菌の様子